

卒業式が次の日だったのです  
学校が終わって一人で家に帰  
つてきていました。いつもの  
ように自分でご飯を作つて食  
べて、テレビを見ていた時で  
した。(Aさん)

みました。(Bさん)

サンマやカツオなどの漁業  
が盛んな宮城県気仙沼市。  
の市立中学校は、翌日に卒業式  
を控えていました。

ちく おがたせん ながつ よる だいきほか  
気仙沼市鹿折地区は、大型漁船が流れ着き、夜に大規模な火  
災が発生するなど、大きな被害を受けました。



東日本大震災の発生から、11日(木)で10年。これまでに確認された死者・傷者・不明者、震災関連死も含めると2万2200人にのぼります。

あのとき、中学生はどうしたのでしょ  
うか。今回は「つなみ 被災地のこども  
80人の作文集」に2人だけ掲載された、  
かんが  
ねんせい  
さくぶんしゅう  
ふたり  
けいざい

少しすると母が帰ってきました。中学校の校庭から「早く逃げろー津波がそこまで来ていいんだぞー」と叫ぶ声がしました。

2人は鹿折中学校の3年生。  
ともに自宅で被災しました。Aさんは1人で、Bさんは家族7人で。  
何度も繰り返し大きな揺れが襲います。その後、Aさんは防災無線が大津波警報を発令するのを聞きました。

東日本大震災の発生から、11日(木)にちもくで10年。これまでに確認された死者・ししゃもんせいふめいしゃかんれんしふくまんじゅうしきにんにんにのぼります。

あのとき、中学生はどうしたのでしょ  
うか。今回は「つなみ被災地のこども  
80人の作文集」に2人だけ掲載された、  
中学3年生の作文から考えます。

まつた「日常」の中で、中学生  
はつあん の発案で配られたペットボトル  
の湯たんぽは、きっと想像以  
うるに温かかったことでしょう。

この作文が書かれたのは震  
災から2か月後、高校生になつ  
てからだそうです。一変してし  
ました。先に避難していたAや  
んは、他の中学生たちとある活  
動を始めた。Aは「この震災は、私た  
ちの命を守るために起きたものだ。  
だから、この震災を機会に、自分たちの命  
を守るために、何ができるかを考えよう。  
それが、この活動の目的だ」と語る。  
Aは、この活動で、自分たちの命を守る  
ための知識を学び、自分たちの命を守る  
ための行動を実践する。この活動は、A  
たちの命を守るために起きた震災の意味  
を理解するための活動だ。

時、涙が出てきました。私の家  
がなかったからです。私は本  
当にショックを受けました。

Bさんは翌日、水が引いた  
ことを確認して中学校に避難し

目撃します。慌てて母と校庭まで駆け上りました。

一方、Bさんは家族で近くの公民館に避難しましたが、津波が迫ってきたため、屋上まで上がりました。そして、がりました。

自分の家がある場所を見た

んでいたAさんは、土煙を上げながら迫つてくる黒い津波を

卒業おめでとう。

を、そして自分を幸せにしま  
す。言動には人権の考え方<sup>じんけん</sup>が入<sup>かた</sup>って<sup>は</sup>いるからです。幸せをつな  
いでいく、そんな人になつてく  
ださい。

「もうじくしゃうりよう  
女帝が死んでしまった。彼女は死んでしま

ら、たくさんの人から支えられて  
いる」とを感じていました。  
私は今まで助けてくれた皆  
さんと、震災後に会つたす  
べての皆さんに感謝して、こ  
れからの長い人生を生きていい  
こうと思<sup>おも</sup>います。

火をたいて水を鍋で沸かして、ペットボトルに沸かした  
お湯を入れて、湯たんぽのようにして、助けられた人やお年寄りの人に配り、冷めていく  
ペットボトルがあれば、温かいものと替えました。

【ご家庭から】ご感想をお待ちしております。学級担任にお渡しください。

年 組／お名前

(ペンネームもOKです)

◆書いていただいた内容をこの通信で紹介してもよろしいですか？（○・×）